

『ふるパトマップ』について

近年、イノシシ、シカ、サルなど野生動物による農作物被害が全国的な問題になっています。これら獣害は農村の生活基盤である農業を危機に陥れるという経済的な側面だけではありません。農村地域の高齢者にとって、自家用あるいは直売所に出すための野菜づくりは『生きがい』ともなっていることが多く、それが脅かされることは『くらし』そのものにかかわる大きな問題です。

今、この地域では主にイノシシ、シカ及びサルによる被害が問題になっています。このうち、イノシシやシカに対しては、防獣柵などの適切な設置と維持管理である程度防ぐことが可能ですが、サルに対しては、より高度な電気柵や檻のような囲いが必要です。また、知能・学習能力が高く、対策のウラをかかれる場合もあることから、物理的な対策だけで被害を軽減することは容易ではありません。しかし、その一方で、知能が高い故に『追い払い』による対策が有効であると言われており、他の地域で実際に効果をあげているところも少なくありません。

サルを追い払うことで得られる効果は、①局所的・短期的な効果（現に荒らしている、あるいは荒らそうとしているその場で追い払うことで、その農作物がそれ以上損なわれることを防ぐ）だけでなく、②地域的・中期的な効果（一定地域内で繰り返し追い払うことで、追われ続けた群れはその地域を避けるようになり、被害が少なくなる）ことも期待できます。さらに、③広域的・長期的な効果（農作物などの「よいエサを、豊富に」食べている群れは爆発的に個体数が増え、それを養うためにさらに農作物を荒らすという悪循環に陥りますが、各地区が連携した『追い払い』により、群れの行動範囲を山に封じ込めることができれば、個体数の増加が抑制され、先々被害が大きくなることも防げる）ところまで繋げることも考えられます。『追い払い』にあたっては、山の中を移動しながら、スキを見て農地に出て作物を荒らすサルの群れに対して、①その都度、②早く（できれば作物を荒らす前に）、③しつこく、追い払うのが効果的で、「群れは今どこにいるのか？」を知っていれば、そのような「効果的な追い払い」を行うことができます。幸い、多気町勢和地域では、町によって発信機の装着がすすめられており、その電波を受信して群れの位置を把握することが可能です。

このようなことから、一般社団法人ふるさと屋では獣害パトロールを行って、そこで得られたサル群れの位置情報情報を『ふるパトマップ』に掲載、提供しています。また、多気町としてもサル群れの動態調査が実施されていますが、町および調査受託者の「NPO法人サルどこネット」さんにご理解いただき、その情報についても掲載していますので、これらの情報が、各地区での『追い払い』等獣害対策に活用いただくことを願っています。

なお、「サルどこネット」さんでは、データ閲覧サイトで情報提供するとともに、登録ユーザーにメール配信もされていますので、そちらもご活用ください。

（「サルどこネット」さんのホームページ <http://www.sarudoko.net/venus/> ）

（※ 『ふるパトマップ』の作成にあたっては、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）農村工学研究部門 農地基盤工学研究領域 農地利用ユニット長 福本昌人さんから多大なるご助言をいただき、また、表示アイコンも提供いただいています。御礼申し上げます。）